

## 第3学年 総合的な学習の時間(防災教育) 指導案

令和2年11月20日(金)

3年生 23人

指導者 赤嶺 直和

1. 単元名 地域の一員としての自分の役割～防災活動に着目して～

### 2. 単元の目標及び育成する資質・能力

○単元の目標

- (1) 様々な災害とそのメカニズムを知ることにより、対処の仕方をとらえることができる。
- (2) 地域の一員として、災害発生時の課題と対処の仕方について考えることにより、自分にできること・やるべきことをとらえ、実践しようとする態度を育てる。

○育成する資質・能力

- ◇自分たちの暮らす地域の特徴がわかる。
- ◇探究の過程に応じて、情報を構造化・抽象化できる。
- ◇自分の考えを、筋道を立てて表現することができる。
- ◇災害等が起きたときに備え、正しい判断・行動をしようとしている。

### 3. 単元設定の理由及び題材について

近年、日本では毎年のように大きな自然災害が発生し、それに伴い多くの被害がもたらされている。本校のある久住町でも、2016年の熊本地震では道路や橋が損壊したり、避難生活をするなど不安な日々を過ごした住民がいたりした。また、生活への直接的な被害はないものの、毎年のように大雨が降り、町のシンボルであるくじゅう連山の山肌が露出し景観が変わる、登山道がふさがれるといった被害が起きている。また、くじゅう連山には活火山もあるので、噴火に対する警戒も怠ることはできない。だが、生徒の中には、災害に関して自分事として捉えられていないものおり、災害のニュースなどを自分たちの現実とはかけ離れたものとして捉えているように感じられる。しかし、実際の被災地や避難所では、復興の手伝いや慰問活動などで中学生が活躍し、そこに暮らす人々の大きな支えとなった例もある。そういった活動ができるようにするためには、子どもたちが日頃から災害について学び、学んだこと、考えたこと、取り組んだことを活かし、いざというときにどう行動すべきかを考えることが大切である。

本学級の生徒は、明るく、物事に前向きに取り組むことができ、互いに関わり合い・助け合いながら学校生活を過ごしている。小規模校なので、生徒の大部分が生徒会の役員や行事の実行委員等の重要な役を担っており、与えられた役割を果たそうと精一杯頑張る姿が見られる。しかし、集団として成熟していない面もあり、よりよい集団をめざして互いに批判・注意し合ったり、学級活動の振り返り等で厳しい意見を出したりする場面はあまり見られない。また、担当者や係に任せきりになり、『自分にはできないことはないか』と周囲に気を遣い、考えを巡らせ、他者のために行動することができない生徒もいる。卒業までに少しでも自分で考え、判断し、行動する力をつけるべきだと感じている。

指導にあたっては、地域の状況を調べ、そこに潜む災害発生時の危険性を考えさせることで課題を設

定させていく。疑問に思うことを挙げ、調べグループごとに学習をすすめ学んだことを交流しあったりゲストティーチャーの話を聞いたりする中で、その疑問に対する答えに気づかせることで学習を深めさせる。また、災害時の状況を現実のものとして体感させ、避難所における様々な課題を具体的に考えさせるために、避難所運営ゲーム(HUG)に取り組ませる。よりリアリティが感じられるように、避難場所の設定を久住中学校にした。HUGを体験することで、「災害や避難生活に対する心構えはどうあるべきか」、「自分たちがどのように行動することが大切なのか」、「現在の地域や行政に不足しているものは何か」、「日頃から家庭で備えておくべき物資があるか」ということについて考えさせたい。このような学習を通して、地域を知り、防災のための安全な街づくりや防災意識の大切さに気づかせ、考えを深めさせていく。そのことが、生徒に日常生活の中でも様々な視点で物事を正しく判断する力を養わせ、その判断の下に冷静に行動できる態度の育成につながると考える。

※HUG：避難所運営を考えるための1つの手法として、静岡県が開発した模擬体験ゲーム。東日本大震災では、震災前にHUGを体験していたことで、妊婦や高齢者など様々な事情を抱える人たちにも落ち着いて的確に対応できたといわれる。震災以降も各地でHUGを使った訓練が行われ、避難所運営を見直すツールとなっている。

#### 4. 単元の指導計画（32時間）

学期	月	時数	探究のプロセス	学習活動	ねらい	評価の観点
1	7	4	課題の設定1	○身近な地域（自治会）について知る。 ○家族や自治会の人に自治会の人数や年齢層を聞く。 ○高齢化率が高いことを確認し、そこから生じる問題点について考える。	ふるさとの現状を把握することにより、課題を設定させる。	自分たちの暮らす地域の特徴をとらえている。
2	9	4		○実態を把握するために、情報の入手の仕方を考え、情報を収集する。		
	10	3		○集めた情報から現状をとらえ、課題を設定する。 *高齢者が多い。 →災害時にどうするか。 →自分たちにできることは何か。 ☆課題1 災害に備え、必要な知識・もの・ことについて考えよう。 ○5つの課題について、グル		

			<p>ープで解決に取り組む。</p> <p>A災害が起こった時にどうすればよいか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難ルート</li> <li>・避難の仕方</li> </ul> <p>B災害が起こるかもしれない場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハザードマップ作り</li> </ul> <p>C災害が起こった時に必要なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食料の入手の仕方</li> <li>・非常食</li> </ul> <p>D災害の種類とメカニズム</p> <p>E避難所とはどのようなものか</p>		
10	4	情報の収集	<p>○グループごとに計画を立て、情報を集める。</p> <p>○情報の集め方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット</li> <li>・インタビュー</li> <li>・本</li> <li>・アンケート</li> </ul>	<p>災害発生のメカニズムの基礎や他地域の災害例からその危険性を理解し、被害の軽減や備えの必要性、情報の活用について考えることにより、災害時に正しい判断・行動をとろうとする心を育てる。</p>	<p>探究の過程に 応じて、情報を 構造化・抽象化 している。</p>
	2	整理・分析	<p>○課題の解決に必要な情報を取捨選択する。</p> <p>○必要な情報から、課題に対する自分たちの答えを出す。</p>		
11	2	まとめ・表現	<p>○自分たちの考えが伝わるように表現の仕方を工夫してまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スライド</li> <li>・オリジナル防災ブック</li> </ul>		<p>自分の考えを、 筋道を立てて 表現している。</p>
	1	振り返り	<p>○発表を聞いた感想を交流する。</p>		
	1	課題の設定2	<p>○高齢化が進んでいる地域の実態から、災害発生時の課題と解決方法について考える。</p> <p><b>☆課題2</b></p>		

			もし、学校が避難所になったら、何ができるだろう。	させる。	
	1	情報の収集①	○もし学校が避難所になったら、どんなことが起こるか、何をすればよいかを考える。	体験活動を行ったりG Tの話を聞いたりし、より安心して避難所で暮らせるようにするためにどうすればよいかを考えることにより、災害後の生活を考え備えるとともに、地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に行動しようとする心を育てる。	災害等が起きたときに備え、正しい判断・行動をしようとしている。
	3		○G Tを招き、話を聞く。 ○体験活動 (HUG) をする。		
	3	整理・分析① 【本時は 2/3】	○G Tの話と体験活動を通して得た情報から、何ができるかを考える。  ↓ ○新たな課題： 実際に避難所になったら、どのようなことが行われるのか。		
1 2	2	情報の収集②	○G Tを招き、実際に避難所になった場合、どのようなことが行われるのかを聞く。		
	1	整理・分析②	○体験活動で得た情報から、現状のままでいいのか、さらに必要なことはないか考える。		
	1	まとめ・表現	○考えをまとめ、G Tに伝える。		
	1	振り返り	○活動を通して学んだことを伝え合う。		自分の考えを、筋道を立てて表現している。



